

北山猛邦

インタビュー in 盛岡

11月下旬の暖かい日、盛岡市の某所で北山猛邦さんにインタビューさせていただきました。なんで北山さんに依頼したかって？ お会いしたかったからです！ お話が聞きたかったんです！（断言）

北山作品は、独特の世界観、終末的な雰囲気、そして物理トリックに重点を置いていることで有名ですが、その背景にはどのようなミステリ観があるのでしょうか？

筑波ミス研史上最北・最長・最ネタバレのインタビューとなりました。ネタバレも多いけど（ホントすみません）、その分内容も濃いできとなっています！

ぜひぜひぜひぜひ熟読してください。

北山猛邦

（きたやま たけくに）

1979年8月9日生まれ、岩手出身在住。2002年に『「クロック城」殺人事件』で第24回メフィスト賞を受賞してデビュー。

他の著作に『「瑠璃城」殺人事件』『「アリス・ミラー城」殺人事件』『「ギロチン城」殺人事件』の城シリーズ作品、『少年検閲官』など。

最近では『メフィスト』『ミステリーズ！』などに短編を発表している。

ブログ 終末観測所 (<http://trickhazard.blog87.fc2.com/>)

聞き手 R&N

ミステリ幻想

——(N、以下略)筑波大学ミステリー研究会では新入生に自己紹介も兼ねて好きな作家、探偵、犯人を訊いています。北山さんの好きな作家、探偵、犯人を教えてくださいませんか？

北山 好きな作家はやつぱり、島田荘司さんとか麻耶雄嵩さんかな。あと北村薫さんも好きですね。あえて挙げるならその三人。探偵でいえば、明智小五郎(注1)がすごい好きでミステリに入ったっていうのはあります。今活躍してる探偵でいえば、御手洗潔(注2)ですね。

——(R) 明智小五郎はやつぱり少年探偵団(注3)ですか？

北山 いえ、少年探偵団は全然読んでないんですよ。創元推理文庫から出ている長編シリーズを読んでいて、その中の明智小五郎が好きでしたね。

—— 御手洗潔シリーズの中で特に好きな作品はありますか？

北山 好きな作品……うーん、暗闇坂(注4)もすごい好きなんですけど、ベタに斜め屋敷(注4)とか、占星術(注4)とか、

まあ初期の作品ですね。

—— あとは犯人ですが……？

北山 すごく印象的な犯人がいるんです。森博嗣さんの『幻惑の死と使途』だったかな。犯人が火の中で行方不明に、みたいな展開になるんです。その時に犀川先生(注5)がその犯人の名前を呼ぶんですよ。そのシーンがすごい好きなんですよね。

—— 私もすごく好きです！

北山 そうですか。

——(R) 覚えてないなあ。

—— ……(怒) 次に「IN☆POCKET」のエッセイでミス研に触れていらつしゃったので、ミス研の印象を伺いたいんですが。

北山 そうですね、有栖川先生の学生シリーズ(注6)。あのミス研がいいなあっていう印象ですね。

—— 出身大学にはなかったのですか？

北山 そうなんです。まだ大学ができたばかりで、僕の上に一個上の学年がいただけだったので全然サークルとかもなく。あつたらたぶん入っていたでしょうけど。

——(R) そこで作るといふ方向には……？

北山 いかなかっただんですよ(笑) 散々考えましたよ。" 同士の求む "みたいなポスタ

ーでも作ろうかって。ただミステリ好きが周りにいなくて、自分しかいなかったんですよ。もう一人友達がいれば、やろうぜってなったと思うんですけど、一人じゃさすがに、アクションを起こせなかったですね。

—— ミス研のイメージは学生アリス。それに憧れていらつしゃったんですね。

北山 そうですね。一緒にどこかに行つて、道中ミステリの話を話す、みたいな。

—— ミステリの話は確かにしますね。

——(R) だんだん逸れてくけどね(笑) 僕も岩手出身で大学を選ぶ時、ミス研のあるなしを基準にしたんです。でも岩手にはミス研のある大学はなかったので……。だからそこで北山さんがミス研を作っていたら、今つくばにいなかったかもしれないです。

北山 (笑) ただ、僕は大学に入ってからミステリを読み始めたので、わりと遅いほうなんですよね。

—— 今年も、他にも好きな助手とか訊いたんです。

北山 助手は美袋(注8)ですね。

——(R) 香月くん(注9)だったら何でもやつてくれますよ。

北山 香月くんは腹黒すぎますよね。美

袋はまだちょっとピエアな感じが(笑)

—— 続いて今までの読書歴をお訊きしてもよろしいですか？

北山 中学生くらいの時、江戸川乱歩の長編からミステリを読み出しました。あと一旦ミステリから離れて、村上春樹とかを読んでたんですけど、途中で北村薫(注10)作品に触れまして。本の折り返しのところに、ミステリ作家って書いてあるんですよ。けど、書いている内容は文学に近いので、これはどういうことなんだろうと思って、ちよつと興味深く読み始めて、それが入っていききましたね。北村さんのエッセイの中で、島田さんの斜め屋敷だとか、綾辻さんの時計館だとかに触れてあったので、それから新本格を読み始めましたね。

—— そのエッセイの題名は覚えていらっしやいますか？

北山 僕はハードカバーで読んだんですけど、『ミステリは万華鏡』だったかな。

—— 北村さんは日常系の人なので北山先生の傾向とは正反対ですね。

北山 そうですね。普通の文学とミステリの方に北村薫さんっていう緩衝材が入ったのですんなりとミステリに入っていけたんで

すよね。

—— それからはもうミステリ一筋？

北山 そうですね。そのころから本格、新本格とか言われる辺りを読むようになってきました。

—— 執筆も大学時代から始められたと伺ったのですが？

北山 それこそ書き始めたのは大学三年生、四年生とかですね。

—— では読み始めてすぐ書き始めたんですね。

北山 そうですね。

—— ミステリを読んで、すぐに自分で創作したいと考えられたんですか？

北山 たぶんそうだと思います。自分で創ってみたくて思ったんでしょうね、きつと。

—— (R)それまでは全然書いていらっしやらなかった？

北山 いや、正直なところ村上春樹の真似事みたいなことはしてました(笑) 高校の

数学の時間に先生の言ってることがわからないので、ルーブリーフに村上春樹的なものを書いていたりとかはしてましたね。

—— ミステリほど創作欲はわかかなかったのですか？

北山 うーん、そうですね。やっぱりまとまった一つの長編を書こうと思ったのは、ミステリが最初ですからね。

—— 文学系の作家からもミステリを書くのに影響を受けたりとかは……？

北山 当初、村上春樹からはすごい影響を受けました。わかる人はわかると思うんですけど、一度影響受けてしまうと書く文章も似てきて、たぶん村上春樹病だと思ってしまう(笑) だから最初はそこから脱出するっていうのが、自分の中でありましたね。他に影響を受けたとすれば中井英夫ですが、ミステリの人ですからね。

—— 書き手側になって、読書傾向に変化はありましたか？

北山 いや、特にはないですね。

—— 作り手になると、他の作家さんの作品が読めなくなるといふのはよく聞くんですが……。

北山 それはあります。影響を受けないようにとかではないんですけど読みたくなくなるんですね。なぜなんでしょうねえ。

—— 執筆を始めたところから読書量に変化は？

北山 減りましたね、やっぱり。

——作家になろうと思ったときつけかけはありますか？

北山 作家になろうと明確には思っていないんですけど、一つ書き上げることができたので、それを投稿して何とかなればいいかな、程度に思っていました。

——就職しようと考えたことはありませんか？

北山 それはデビューしてからですね。僕は卒業と同時にデビューした感じなので、やっぱり安定した職がある上で書いたほうが絶対いいですよ。でも今さら就職しようと思っても難しいので、もう後には引けないんですけど。僕は就職活動とか嫌でしたから、ラッキーっていう感じで、作家にそのままなったんですけど、やっぱり安定した収入があったほうが、精神的にも楽じゃないかとは思いますが。

——クロック城は処女作？

北山 そうですね。

——ミステリの賞の中でなぜメフィスト賞（注11）を選んだのでしょうか？

北山 最初は鮎川哲也賞（注12）しか知らなかったんですね。ただ、どう考えても自分の書いているものが鮎川哲也賞には

向かないだろうって思った時に、メフィスト賞関係の本がぼんぼん出てたので目に付いて。じゃあここからっていう感じですよ。

——デビュー後、ミステリ以外を書くことは考えましたか？

北山 書きたいっていうのはありますね。ただ出しようがないですよ。今までやってきたことと全然違うものを講談社ノベルスとかから出すとなった時、需要があるのかどうかとかそういうことも考えますからね。

注1 明智小五郎

江戸川乱歩作品に登場する日本で一番有名な探偵。初登場作品は『D坂の殺人事件』。名探偵の代名詞的存在である。

注2 御手洗潔

ゴッドオブミステリー・島田荘司の小説に登場する探偵。IQ三〇〇以上、地球上に存在するほとんどの言語を巧みに操り、あらゆる学問に通じている天才であり奇才。探偵が趣味の脳学者。

注3 少年探偵団

明智小五郎登場作品のうち、ジュヴナイル作品に登場する子供で構成された探偵団。明智の助手である小林芳雄が団長を務める。

注4 御手洗潔登場作品

『暗闇坂の人喰いの木』『斜め屋敷の犯罪』『占星術殺人事件』。いずれもいわずと知れた名作です。

注5 犀川創平

森博嗣の作品に登場するシリーズ探偵。

国立N大学助教。その素敵すぎる人物像で、何人ものTMC会員を魅了している。本当にカッコいいんです、犀川先生は！語りたいた人はぜひ入会してください。

注6 学生シリーズ

有栖川有栖の作品で、英都大学推理小説研究会（EMC）の部員達が事件に巻き込まれていくシリーズ。これまでに『月光ゲーム』『孤島パズル』『双頭の悪魔』『女王の城』の四作が刊行されている。

注8 美袋

美袋三条（みなぎ さんじょう）

銘探偵・メルカトル鮎の友達にして助手のミステリ作家。麻耶雄嵩『メルカトルと美袋のための殺人』などに登場。メルと黒さと美袋のダメダメっぷりが面白い。

注9 香月くん

香月実朝（こうづき さねとも）

木更津悠也の助手。名探偵に勝るとも劣らない推理力と腹黒さで有名。同じく麻耶雄嵩『名探偵 木更津悠也』『木製の王子』などに登場。

注10 北村薫

代表作は『空飛ぶ馬』に始まる円紫さんシリーズ。日常の謎というジャンルを確立したことで知られる。ミステリの執筆に限らず、エッセイや書評も多い。

注11 メフィスト賞

講談社の小説雑誌『メフィスト』から生まれた賞。「究極のエンターテイメント」、つまり面白ければなんでもありという方針で作品を募集している。個性的な作品が集まることでも名高い。応募期間、枚数規定なし、編集者によって受賞作品が決定されるという特徴を持つ。

注12 鮎川哲也賞

東京創元社が公募している。情熱と創意溢れる推理小説に与えられるらしい。メフィスト賞より間口が狭いミステリ系新人賞といえる。現在の選考委員は笠井潔、島田荘司、山田正紀。

表れた本格の徴

『クロック城』殺人事件

——では作品について伺いたいと思います。クロック城は処女作だと先ほど伺ったのですが、何か参考にした本などありますか？

北山 心理学関係の本はやっぱり、資料的に参考にしましたね。

——心理学ですか？

北山 はい。本の中でも一つのテーマになっているんですけど、ゲシュタルト心理学っていうのが、当時ちよつと気になっていて、図書館で読んだ本などを参考にしました。

——私は学部が心理学とか教育学関連なんですけど、心理学の本がミステリと関係するなんて全く考えませんでした。

北山 ほんとはそっちの専門に進みたかったんですけど、うちの学科とか大学にその専門の人がいなくて、しょうがなく自分で勉強しました。やっぱり最初は身近な知識から創作の道具にしようかな、っていうのはあったので、心理学関係の本はだいぶ使いましたね。

——最初から城が舞台だったんですか？

北山 そうですね。なんで城かつていうと、あれは麻耶雄嵩の『翼ある闇』で、蒼鴉城（注13）が出てきたので、ここはなんとか城にしようと思つて(笑)

——館ではなく、あえて城で……。

北山 蒼鴉城つていうのは、実際見た目はそんなにお城お城していない建物で蒼鴉城つて呼ぶみたいなの設定だったので、僕もそれに倣おうつていう感じですね。そういう意味ではすごく『翼ある闇』も参考になっているかな。

——確かに城という感じではないですね。

北山 そうですね。僕としては城つていうのはそれこそ名前だけで、建物としては城つていうイメージは当時からなかったです。ちなみにクロック城は最初から最後まで雨が降り続けてるんですが、映画の『セブン』では解決編に至るまでの間に雨がずっと降ってるんですね。だからそういう手法があると聞いた時に、パクリだけじゃろうかなと。

『瑠璃城』殺人事件

——瑠璃城はファンタジー要素も混じっていますよね？

北山 そうですね。はっきり言えばファンタジーだと思います。本格ミステリのコードを使ったファンタジーつていうのが作品を理解する上でわかりやすいんじゃないかと思うんですね。つまりトリックとか殺人とか首なし死体とか、いわゆる本格のコードと言われるものを使ってファンタジーを書いたらこうなったというものだと思いますね。なので、あそこに出てくるトリックはファンタジーのつもりだと思つていきます。この作品に限らず、トリックそのものは一種のファンタジーだと思つてもらえればいいんじゃないかな。

——大きく分けて三つの部分、塹壕・図書館・瑠璃城があつて、どこが始まりかわからないという話も批評会では出たんですが、そこは意識して書かれたんですか？

北山 そうです。もちろん書く前の段階でパート分けをしてノートに表を作つて、ここで何が起きてここで何が起きてということ、全部書いて、それを組み立てました。あの話の中ではループしてるような感じになります。読める側も、どこがどうつながつているかとか分かりにくいかもしれませんが。

——わざとだと思つていたのですが……。

北山 わかりにくいのはわざとではないですね(笑)。単に僕が上手く書けなかっただけで。時間軸がどう移動してるのかは、もともとわかりにくいとは思いますが。

——あと、本の題名を瑠璃城に限定しなくてもいいのではないかと、思ひまして。

北山 もともとタイトルは全然違ったんですが、前がクロック城だったので、次もなんとか城にしようつていう話になったんですね。それで話に出てきたお城を無理やり瑠璃城にしたみたいな感じですね(笑)。ぶっちゃけてしまうと。だからもともとお城を中心に考えてたとかいうわけではないです。

——それぞれのトリックが面白かったんですが、北山先生は死体を利用したトリックが得意なのかなと。

北山 特別そこから考えているわけではないです。でも、死体でどうこうできたらミステリ的に面白いとは思いますがね。

——死体で、ですか？

北山 はい。だからあまり人間らしい感情的な部分は書かないようにしてます。

——あえて書かない？

北山 やっぱり生々しくなりますからね。

僕は人を殺したいわけではないので(笑)その中で、思い入れが入っちゃうと、できることもできなくなると思うので、あえて人形的なイメージで書いていますね。

—— キャラクタに思い入れがあるときできないということですか？

北山 それができたらちよっと人間的に危ないですよ(笑) 作家の中には自分のキャラクタを我が子のようなイメージで書いてる人もいますし、そういう意味で、我が子の体をバラバラにして、どこかに置くとかは避けたいですよ。だから残酷なつもりでやっているのではなくて、一応残酷にならないように、あえて人形的に、人間としての生々しさを持たせないようにしてます。

—— もう一つの舞台である塹壕の地図は複雑でした。

北山 はい。あれはなかなか。我ながらよくこんなめんどくさいものを作ったなって。でもどうでした？ 批評会は。なんだこれはってみんな言っていますか(笑)

—— みんな納得していたような気がしません。批評会では最初に感想を言ってもらうんですが、その時点ですでに三つのトリックの中でどれが好きかで盛り上がっていて。

北山 瑠璃城のトリックにはあるきつかけがありました。有栖川さんの『四十六番目の密室』の中で、ミステリ作家がなんか凄いいトリックを残して死ぬんです。メモだけを残すんだけど、そのトリックが焼けて読めなくなるという話があるんです。そういう意味ではあのトリックに挑戦した感じですね。それと、図書館のトリックは現実に成功させようと思ったらかなり無理がありますよね。作者としてはあんな感じのトリックが成功するかしないかは、もう度外視して書いていますから。トリックそのものを一つの面白い映像として出すという目的が強いので、特に瑠璃城では成功するしないは二の次に置いている感じがしますね。

—— でもすごく楽しかったです。

北山 そうですか。それはよかったです。

アルファベット荘事件

—— レーベルの違い(注14)もあるのか、アルファベット荘は城シリーズとは少し傾向が違うかなと。

北山 あれはわりと現実的な世界をベース

にしていますね。確かあえて地名も岩手と出しましたし。はつきりと地名を出したのはいずれだけなんですよ。

—— それもあえて？

北山 やっぱ、そうですね。現実に行きたくないことがあるから。例えばクロック城を現実世界でやらなかったのはなぜかみたいな話を聞きますけど、やっぱりどう考えても違和感が先に来るんですよ。城があつて、ああいう殺人事件が現実で起きて、はたして馬鹿馬鹿しくないのか、ありえないだろうっていうのが先に来るんですよ。そういう意味ではアルファベット荘もちよつとありえないんですけど、そのへんは、わりと現実に沿った形に近いんですね。基本的に僕はシリーズもので考えないんですよ。今までシリーズとして作品を考えたいのは『少年検閲官』くらいなんですけど。基本その一作で全部終わらせようっていうふうには思っていますね。

—— なぜですか？

北山 ミステリとしては、そのほうが絶対に美しい形になると思うんですよ。シリーズものの登場人物は基本犯人にならないし、たいてい生き残るんですよ。それをひっく

り返す技もあります。が、シリーズものにしてないであえて一つの作品で終わらせたほうが、やっぱりミステリとしては緊迫感がある。

—— 読者を意識されたりしますか？

北山 うーん、やっぱり読者のにはシリーズ探偵が必要ですね。読者についてきてもらうなら、シリーズで読んでもらうっていう意味で、シリーズの探偵がいたほうが絶対にいいと思いますね。

—— 読者からすれば、どの作品からでも楽しめていいんですが。

北山 でもやっぱり人気を出すというか、固定客をつけるには、シリーズ探偵かなとは思いますが。

—— (R)『少年検閲官』はシリーズですね。

北山 もともとあれは短編集……連作短編集として考えてたんです。連作かっというとなまたちよつと違うんですけど、同じ探偵が登場するっていう意味では最初からシリーズものとして考えてます。

—— キャラクタによつて犯人から外れる状況は作りたくない？

北山 そうですね。だから毎回登場する

探偵も犯人かもしれないという緊迫感もたせたいですね。

—— 個人的にはアルファベット荘が手に入りやすくなればいいなと思ってます。

北山 一応話はあるんですよ。

—— 私は持っているんですけど、もうちょっと手に入りやすくてもいいかなって。

北山 ですよね。だからそのうち、どっから出ると思えますよ。でももうちよつとレア度を高めてから、っていうのは冗談ですけど(笑) やっぱり過去の作品なので、出す時は多少いじらなきやいけないでしょうし。過去のものをいじるっていうのは、後ろ向きな感じがするんで嫌なんです。それなら新しいものを書きたいっていうのがあるんで。

—— 文庫化は続きますか？

北山 一応次の瑠璃城が出ると思っています。来年、頭くらいに。

—— クロック城の文庫、表紙がステキでした。

北山 あれは怖いですけど(笑) 最初見たとき、ちよつとこわっ！ と思って。なので次はなるべく怖くしないでくれってお願いしようかと思ってます(笑)

—— 確かに強烈ですね(笑)

北山 怖いですよ(笑)

『アリス・ミラー城』殺人事件

—— (R) 作中で使われたトリックでは「なぜそのトリックを使ったのか？」という必然性の部分までしっかり考えられているのは意識してですか？

北山 それは一番悩むところですよ。ほとんどの作家さんが、必然性をどう現実世界と作品世界とですり合わせるかというのに多大な力を使うって聞きますね。その安易な手段として現実をずらして、密室や奇抜なトリックが存在しうる状況を作るっていうのがあるんですけど、普通はありえないですからね。密室殺人にしてもなんにしても。ほとんどの作家さんが、そこに關しては一番気を使うらしいですね。僕もわりと悩みます。

—— リアリテイですか？

北山 そうですね、リアリティの問題ですね。

—— (R) 物理トリックの十戒みたいなことがありますか？

北山 七か八か九か、ありましたね(笑)

——(R)十戒とかつて考えてますか？

北山 意外と考えてないです。結構いろんな人がやっていますからね。僕が知っているのでアリバイトリック分類を有栖川さんが『マジックミラー』でやって、霧舎巧さんが『ダイイングメッセージ分類』を『ラグナロク洞』でやって、あとは麻耶雄嵩さんが『翼ある闇』で密室作成の理由、というんな人がやってるので、今のところ僕は考えてないです。やるとしても、もう残されてないんじゃないですかね。

——(R)密室なりアリバイトリックをした人はいますけど、物理トリックでやった人はいないと思います。

北山 誰か一度やってみるといいかもしれないですよ。トリックを考える上でも役に立つんじゃないですか。遠心力とか慣性とか、そういう使えそうなもので。現代に入って、ちゃんとトリックを体系的に分類した人はいないと思いますよ。ちよつと前に泡坂妻夫さんがトリックの一覧を作ったりするんですけど。それからたぶんないと思いますね。

——(R)密室とかアリバイとか、それぞれ

のトリックならありますが、全般的なのはいいですよ。

北山 ないですね。批評好きな人がいれば挑戦してみる価値はあるかな。批評は：(と仰ってアンスをこ覧になる)。

——(R)昔一回分類しましたね。

——そうでしたっけ？

——(R)22号か23号かな？ 卒研でトリック分類をやるので、そのための覚書を書いたはず。

——ええ!?

——(R)卒研のテーマは分類ではなくデータベースなんです。

北山 一般的な大きなくりのトリック？

——(R)広く全般的な意味でのトリックと考えています。

北山 泡坂妻夫さんが書いていた中には、詐欺のトリックもありましたね。そうなる結構難しい。分類そのものの項目分けくらはできたとしても、網羅するのはちよつと難しいですね。

——(R)あと、人によつてこつちじゃないのかつていう意見があつて。北山さんが解説を書いた『消失!』(注15)のあとがきでこれはあれじゃないつて書いてあるのを読んで

「あ、そうか」と思ったんです。ずっとそれ系のすごい作品だと思つていたんですけど、でもよく考えたら違うんだなつて。

北山 あの作品の解説は本当に難題でしたね。作品を読んでもらえれば、いかにあの本の解説を書くのが難しいかわかると思っています。

——(R)例えば館シリーズは叙述が多いけど、××館は正確に言えば叙述じゃないよなつていう感じで。

北山 そうですよ。

——(R)登場人物がだまされて、勘違いしてるから叙述じゃないつていうことですよ。たぶん分類でも叙述かどうかのポイントになつてくる。

北山 何に分類されるんですかね？ 錯誤とか、心理的な方向になるんですかね。

——(R)トリックは全部何かを何かに見せかける、何かを何かと勘違いするものだと思うので、その辺りで分類しようかなとは思つているんです。けど、その分類が結局5WIHとかで終わりそう、それだと簡単すぎるので、卒研として成り立たない。
——図情つてそういうこともやるんですね。

——(R)僕は図書館情報学をやってるんですけど、図書館では分類なりデータベースを作るのでそういう先生のところに行って、分類をやってます。

北山 面白いですよ。図書館分類法みたいなものを一回何かで調べたことがあるんですけど、結構見て面白いですよね。

—— 観月が推理小説について語っているところがあつて、それがひよつとして北山さんのお考えなのかなと思つたんです。

北山 たぶんわざと結論を避けて書かなかつたんですね。現実に対して物理トリックがたどつた道っていうのは、従順か敗北かつたっていうのを書いた気がします。

—— そのが印象に残つていて、北山さんご自身のお考えなのか、観月のセリフなのか気になつたんです。

北山 これも重なる部分がありますね。服従と敗北つて書いたんですけど、つまり物理トリックの敗北つていうのは一切物理トリックが書かれないものですよ。現実には物理トリックを導入することは不可能だ、という意味での敗北です。それと服従つていうのは、現実には照らし合わせた範囲で書かれた物理トリックなわけです。現代の物

理トリックのミス터리つていうのは、その程度のものしかないというか、それ以上のことをしようとは誰も考えていない。そう思つた時に、じゃあどうしたらいいのかつていうのが作品自体のテーマですね。物理トリックが現実に服従せず、敗北もせずつていうのを書きたかつたんです。それで、あえて書かなかつた結論はこの本自体で示してしまふよ、という。他にもいろいろと実践していることがあつて、たとえば一番最初に出てくる、鷺羽くんつていう人物が視点の中心人物で、彼が主人公のように進むんですけど、一番最初に死ぬんですよ。これはつまり、視点人物だからつて最後まで生き残るとは限りませんよ、ということを書いてみたんです。

—— いろいろな意味で、ミステリのお約束に反することを試されてるんですね。

北山 そういえば関係ない話になりますが、アリス・ミラー城で、あえて携帯電話について一言も書いてないんですよ。本来なら触れるべき条件なんですけど、あえて一言も書いてないんです。ただ、それに関して指摘した読者つていうのは一人もいなくて。読者がどう反応するかつていう実験じゃないで

すけど、あえて書かなかつたんです。

——(R)全然違和感なかつたですね。

北山 お約束はお約束として読者は読んだなつていうのはわかりましたね。

—— 作品中に出てくる黒い雪が幻想的でステキだったのですが。黒い雪はどこから考えたんですか？

北山 産業革命の頃のロンドンとかでは灰が降るくらい大気の状態がすごかつたらしいんですよ。だから実際に黒い雪が降つたという話もあつて。作品に書いたのは大げさですけど、無きにしても非ずの現象らしいですね。

—— 動機も変わつてますよね。

北山 さすがにあの動機を考える人はいないですよ。そこまでいくとリアルとはかけ離れますから。

—— 書いている時は非現実的だなとか、考えたりしますか？

北山 自分の中では組み立てて書いてますから、そうは考えませんね。

物理という名の死

——叙述トリックについてはあまり好きではないというようなお話を伺ったのですが（注16）。

北山 作る側としてはあんまり好きではないって意味であって、読む側としては普通に好きですよ。でも、作る側としては禁じ手とか自分の中で封じるべき手かなと思うんですね。実際やったことはありませんけど、叙述トリックは何でもできてしまうんですね。叙述トリックを使うならそれこそミステリじゃなくたっていいんですよ。ミステリの中で安易にそっちの方向にいつてはダメだなっていう、自分に課すルールじゃないですけど、少なくともミステリの中でどうしようもないってために叙述を使うのは避けてますね。

——「ミステリマガジン」の笠井さんとの対談で、某作（注17）は結構はつきりと本格ではないって仰っていたので、気になっていたんです。

北山 米澤さんと辻村さんがいて対談したやつですよ。批判的なことを言ってしまったっているんで、ちょっとビクビクしながら

直したりしたんですけど、あの作品自体は別に嫌いじゃないし、すごくいいと思うんです。でも、あの方向でいるんなものが書かれるようになってはダメだっていう意図でしゃべってるんですよ。要するに叙述トリックというのは人も殺されず、特別ミステリ的な状況でもなくてしまおう。叙述トリックっていうものを安易に作ってくる人が後から出てきてしまつてはやっぱり不味いんじゃないかっていうような発言なんです。あの作品自体には僕も驚かされて、こんな作品ダメだとかそういうことじゃないんですけど、今後あれがスタンダードになっていくと、よくないんじゃないかというふうに思っただんですよ。

——（R）容疑者X（注18）はどうですか？

北山 本格か本格じゃないかって言ったら、僕は本格ではないと思います。というのは、使ってるアイテムとか、題材がやっぱり違うんですよ。そういう意味では僕が考える本格っていうのはコードとかガジェットとか、アイテム的な部分なのかなと思うんですよけど、容疑者Xっていうのはすごくリアルなんです。でも、例えば東野さんが書いてる中で、これは本格だっと思うもの

はやっぱりリアル感がないというか。例えば、仮面じゃなくて何だったかな。……演劇部員が。

——（R）『ある閉ざされた雪の山荘で』？

北山 あ、そうです。それなんかはちょっと現実感が薄いですよ。

——（R）設定がですか？

北山 そうですね。そういう意味でリアルと非リアルっていうのは、本格か本格でないかっていうのに関わってくるんじゃないかな。

——そういう意味で非リアルを貫かれてるんですか？

北山 難しいですね。やっぱり非リアルの中でしか密室とかは存在し得ないと僕は思います。もちろんリアルにすり合わせていくっていう方向もありますけど。

——日常の中で物理トリックはできるけど、それって現実かな……とか。

北山 基本的に物理トリックっていうのは、死が関わってこないとあんまり……。もちろん死の関わらない物理トリックっていうのも今後考えていくべきだと思うんですけど、物理トリックと言うものは基本的に死が関わってくるんですよ。なので、面白い題材

だと思えますよ、日常の謎での物理トリックは。誰かがやればいいんですけど(笑) 実際、僕一人がトリックトリック言っているだけでもしょうがないので、今後どんどん物理トリックを扱って書こうって人がいっぱい出てくれば僕としても望ましいですね。今本当に叙述トリックが多いですからね。

——多いですね。

北山 そうなんですよね。

——(R)使っていないのは、米澤さん(注19)と北山さんくらいしか思いつきませんしね。

北山 そっちの方向がダメだとは思われないんですけど、それに対して物理トリックをどうしようとして人があんまりいないんじゃないかな。

——(R)もうちょっと若い人達が出てくる……。

北山 業界で言えば、僕は下っ端のペーペーなんで、まだまだなんですけど、いずれもつと若いの人達も出てくるでしょうし、そういう人達はどうなるか……。今の傾向から行くとやっぱり叙述トリックが強いのかなと思いますけどね。

——西尾さんの影響ですかね。でも森先

生が……。

北山 そうなんですよね。わりと森博嗣作品は物理トリックが多いですし、密室とか多い。森作品は好きなんですか？

——はい、好きです。

——(R)僕らの年代くらいだとS&M、V(注20)くらいは結構読んでるけど、もはやみんな旅立ってる。

北山 途中から速度に着いていけなくなりますよね、やっぱり(笑)

——(R)最初はすごいと思って読んでたんですけど。

北山 最近なにがどの順番で出ているか把握できなくなってる。

——(R)φとかθとかどれが最初なんだっけ？ みたいな感じで。

——φです(怒)

——(R)あ、はい……。

——やはりあの執筆ペースは速いんですね。(注21)

北山 早いですよね。一年に三冊出るのがプロの作家として理想だと思います。けどそれを実現するのはやっぱり難しいですね。特にミステリでそれなりにサプライズ的な要素を入れて、と考えると難しいですね。

——ミステリは読者をとっても意識するジャンルだと思います。

北山 そうですよ。ミステリの読者はやっぱり驚かされたいんですよ。なので、叙述トリックにしてもそうですけど、サプライズがある作品は評価が高まるんです。ただ、驚かすのも、今は本当に難しくなっているといますね。慣れつついうのはありますから、その中でどうやって驚かしていけるんだろうって考えるとぼんぼんぼん出せないですよ。

——追いかけている作家さんはいらっしやるんですか？

北山 僕がミステリを読み始めた時期には、もうみんな一通りのものが出揃っていたのであまり追いかけてないんですけど、新刊が出れば急いで買いに行くのは麻耶雄嵩さんですね。あんまりたくさん本が出る作家ではないので、こちらとしては楽ですよ。

『ギロチン城』殺人事件

——次はギロチン城ですね。非常に大掛かりですが、トリックは全て最初に考えるんですか？

北山 そうですね。もちろん最初にトリックは全部考えますね。

——このトリックが使いたいかからこういう作品というような……？

北山 そうですね。そこから派生して、それにまつわるアイテムだったり、ギロチン城でいえば、四人の女の子がいてみたいなことを考えたりします。やっぱり最初にトリックありきですよ。

——どの作品も基本的にそうなんですか？

北山 そうですね。設定や登場人物から入った作品はないですね。全部トリック。

——(R)クロック城も時計のない屋敷という設定より密室トリックとか首切りが先に？(注22)

北山 そうですね。そこから全部スタートしてまずね。

——じゃあトリックに肉付けする形で作られるんですね。

北山 そういう意味で設定とかに全然執着心はないですよ。その中でトリックが映える物語をいかに作れるかっていう部分を重点的に考えていますね。

——トリックが使えるかどうか？

北山 そうですね。創り方としては、キャラクター云々ではないですね。

——城シリーズでは、雪と曇り空ばかりで、晴れているイメージが北山さんの作品にはないんです。それも舞台を際立たせる一つの手段なのかなと考えたのですが？

北山 そうですね。閉塞感というか、暗いイメージ。色に例えたら、灰色のイメージを常に持つて書いてはいますね。

——閉塞感を意識されてるのはどうしてですか？

北山 なぜですかね……一つの終わりについてなんです。今まで話が続いたものは書いてないですけど、やっぱり世界をその作品の中で終わらせるためですかね。

——世紀末観みたいなものですか？

北山 そうですね。最初のクロック城は世紀末観云々っていうのが、メインに近いテーマではあったんです。自分はミステリーに絶望というか、ジエノサイドというか、何か

の終わりみたいなイメージを重ねるんです。あんまり晴れた空の下でどうこうっていうイメージはないですね。

——作品世界の中で他に人が生きていく感じがしないのも？

北山 例えばクリステイの『そして誰もいなくなつた』を読んだ時、終末的なイメージを抱かない人はいないと思うんです。一人ずつ殺されていつて、次は自分じゃないか、みたいな緊迫感の中でどんどんどんどん人数がいなくなつて。そういう終末的なイメージっていうのは本格ミステリーというものと親和するイメージがあります。僕の場合はそのイメージをあえて強調して書いている部分もありますね。

——モチーフとしてロシアがお好きですか？

北山 ギロチン城の頃ですね、ロシアにはまったのは。それでロシアの人形とか、そういう話が出てきたんですけど。

——北山さんの作品で感じることは、絶対晴れていないことと、雪と、あとロシアなんです。

北山 そういえばそうですね。でも一番ロシア的なのが出来るのは、ギロチン城だと思

いますけどね。他はそんなにロシアのイメージはないですけど。

——あとギロチン城だとスクウェアが印象的でした。スクウェアの話はどこかで読んでいたんですが、雰囲気全然違うんです。

北山 あのわりと有名な都市伝説は最初聞いたときは怖かったりしたんですけどね。書く段階で同じことをやってる人はいないかって聞いた時に、編集者が持ってきたのが「探偵学園Q」で。他は似たようなので小野不由美の『くらのかみ』ですね。

——そうか『くらのかみ』。

——(R)ありました？

北山 冒頭でちよつとあるらしいんですよ。たぶんあれは純和風の蔵の中ですが。

——確か、座敷わらしとか、そんな話でした。ミステリを書く上で、前例は気になさるんですか？

北山 やっぱりミステリを書く上で前例というものはすごい気になりますね。まさにミステリは前例との戦いですよ。特にトリックでやっていこうとする人であれば、前にやってくる人がいないかっていうのはすごい気になるんじゃないかと思います。

——(R)『少年検閲官』を読んでいて怖か

つたんです。僕が書いているミステリの真相が活きる設定だったので。もしその真相だったらどうしようって。結局、違ってたので良かったですけど。

——それはやっぱり書いていらっしやる方の恐怖ですね。読み手としては多少似ていても平気です。

北山 (笑) そうですね。それはあります。新しく作るの難しいですよ。

——(R)トリックを思いついたけど、調べたら他で使われてたつてことはありますか？

北山 ありますね。どうしても近い感じ、近い匂いのあるトリックとかやっぱり多いですからね。瑠璃城の死体移動してどうのこうのつていうのに関しては、当時講談社ノベルスの某作に似てるつて編集者に言われました。

——(R)それは全然似てない気が。

北山 僕自身はそんなに似てないかなつて思ってたんですけど、近いのは探せば世の中いくつでもありますからね。

——似ている作品とかはご自分で調べてみるんですか？

北山 最近では、調べられないのもう諦めてますね。自分で思いついたものであれば、

誰かとかぶつてもこれはしょうがない、というか、むしろ先例は確実にあるんだつていう風に考えてます。やっぱりそこで躊躇はしてはいけないと思いますよ。

——(R)同時期に似たような作品が出ることもありますしね。

北山 怯えてたらたぶん何も書けなくなるので。ある程度わりきりが必要ですよ。

——北山さんはまずトリックありきというんですが、動機も全作凝っていると思います。

北山 そうですね。動機もわりと凝ってるほうなんです。元の世界設定がありえないので、その中で違和感がなくて、現実になさそうでそれなりに狂っている感じの動機を考えますね。

——城シリーズを通じて感じているんですが、あるインタビューで「書きたいのは人間ドラマではなくてミステリである」と仰っていたのを目にして、それが現れてるなつて思っています。

北山 そうですね。人間を描こうか思つたことは一度もないですね。それこそ辻村さんは全然真逆で、人間関係について描きたい作家さんなんだと思います。本当に

いい意味で間逆だと思えますね。

——西尾さんとの対談で話されていたと思うのですが、「自分の出発点」というのは？

北山 トリックそのものがやっぱり面白くないといけないと思うんですよ。例えば明かされたときになあんだ、っていうんじゃないかと思うんです。トリックが明かされた時にそれなりの驚きとまでは言いませんけど、それ自体が楽しいというか、面白いものでないといけないとは思いますが。だから言ってしまうは僕はトリックしか描いてない気がするんですよ(笑) 島田荘司さんが監修してる『本格ミステリーワールド』にも一つコラムを書いたんですけど、ミステリの中ではトリックそのものがエンターテインメントでなければならぬというの、僕の出発点かなと思うんですよ。だから殺人の方法が明かされて、犯人が見つかったバンザイっていうんじゃない、トリックそのものが印象に残るようなものが書けたらいいなって思いますね。

——それが北山先生の出発点なんですね。

短編の中の少女

——続いて短編について伺おうと思うのですが……。

北山 最近短編はいっぱい書いてる気がしますね。どれが好きですか？

——(R)「恋煩い」(注23)か「糸」(注24)ですね。

——「ジョーカー」(注25)も好きだったって仰ってましたよね。

——(R)ああそっか。じゃあ「ジョーカー」か「恋煩い」のどちらかです。

——私は「恋煩い」と「糸の森の姫君」ですね。

北山 僕は書く側としては短編のほうが好きですね。というのはすごくダイレクトに自分のやりたいもの、例えばトリックとかか書けるんです。だから短編のほうが書きやすいし、好きですね。

——物理トリックは派手なイメージがあるので、短編には向かないと思っていたのですが。

北山 やってしまうと長くなってしまいますからね。わりとひねったトリックというか、

物理トリック云々よりも、簡単なトリックをいかに有効に使うか考えますね。

——「踊るジョーカー」のトリックとかですか？(注26)

北山 ああ、あれ実際にやってみました。

——実際に試したんですか!?

北山 ナイフじゃなくて、カッターを使ってやってみたんですけど、実際あんまり上手くいかなかったですね(笑) あんなに上手くいくには、それなりの覚悟、慎重さが必要かなと思います(笑)

——(笑) 他にも実際に試されたトリックなどありますか？

北山 糸の森のトリックは、作ってみましたけど、上手くいかなかったです。というか、構造がちゃんとできなかったです。

——短編のほうが長編よりも人間的な温かさというか、感情を感じました。

北山 そうですか？ 一人称で書いているものもありますし、わりと感情的な部分を書いているかなって気が自分ではしますね。長編だと一人称は『アルファベット荘事件』くらいですが、短編は一人称で書いているのが多いので、それなりに人間的な部分が出てしまいますね。

——『少年検閲官』や「踊るジョーカー」
「時計泥棒」などのシリーズものの方が登
場人物の会話の描写が生き生きしている
ような……。

北山 キヤラを立てようとかではないん
ですが、会話は抑制せず自由に書いてま
すね。シリーズだと細かい一つ一つの発言自
体がミスディレクションになる可能性もあ
りないですから。それに現実的で生々しい
話にするとそれだけでリアルになって、変な
現実感が出てきてしまうので、その意味で
は、長編の単発作品よりもシリーズ作品の
登場人物には自由に発言させてますね。

——北山さんの中で、こういうトリックは
短編向き、あるいは長編向きというよう
なものはありますか？

北山 基本的にはどのアイデアも短編には
できるんですよ。ただそれを長編にする
かどうかというのは、そのときの考え次第
ですね。例えばギロチン城のトリックはそれ
だけで短編のアイデアにしようと思えばで
きるんですよ。それを長編にするのはその
時の流れですよ。(笑) 短編書いてくれば
いう依頼があったら、短編に使ったり。
——(R)トリックのストックはありますか？

北山 いくつか考えているのはありますけど、
そんなに豊富ではないですよ。その都度考
えたりもしますし。

——女の子の描き方が、短編の好きな部
分の一つですなんですが。

北山 基本的に女の子であっても、中性的
なイメージで書いています。そういうのは得
意ですね。極端な性別を表現しないこと
で毒がなくなるというか、硬さがなくなると
いうか。毒がなくなるっていうとこまでは
かないですけどね。

——某短編は悪意を感じます。怖いで
す。

北山 そうですね。やつぱりトリックから出
発してるんですけど、基本的にトリックは
殺人事件だけじゃなくて他の何かにも使
えるんじゃないかと思えます。それこそ叙
述トリックっていうのは人間を描いたり、い
ろいろなことに使えたりしますけど、なら
物理トリックでそういうことができないのか
って思ってたのが糸の森です。
——あのトリックはステキでした。
——(R)そうそう。

——あと短編とは違いますが、「ファウス
ト」でやっていたリレー小説(注27)の企画、

面白かったです(笑)

北山 ああ(笑) ミス研ではリレー小説とか
やらないんですか？

——(R)僕は一度だけやりました。六人
希望者がいたんですけど、六人で一つの話
を書いて、誰かが失敗して完成しなかつた
ら、会誌が出なくなる。なら三人ずつ二チ
ームに分ければ、どっちか完成するだろう
って、同時進行でやっただけです。結局は両
方完成したんですが。

北山 (笑)

——(R)僕は解決編担当だったんですが、
一人目と二人目の人がそれぞれ叙述トリ
ックを仕掛けてたのにまったく気づかず、
普通に解決させてしまったのでちよつと申
し訳ないなど。北山さんはリレー小説に参
加するまで「ファウスト」には書いてなかつ
たんですよ？

北山 そうですね。というか、あれよりも
前に短編のやり取りが太田さんとあったの
で、話は聞いてたんです。最初は冗談で聞
いてたんですけど、本当に行くことになつて
びつくりしましたね。

——本当にホテルに缶詰……？

北山 はい。ホテル以外本当に行くところ

がなかったです。外に出る時間もなかったです。写真撮影のときに一回だけ海に行っただけです。

—— ああ、これですね。(ファウストのグラフィアを開く)。

北山 なんか山の一点を見つけてくださいとか言われて(笑) CDのジャケット的なもの(注28)を取りたかったらしいですよ。大変でしたが、懐かしいですね。

—— なかなかハードスケジュールですよ。ね。

北山 一回やってみたらどうですか？

——(R)昔は泊まり込みで編集長の指示の元で原稿書いてたらしいです。合宿所とかに泊まったとか。

北山 そのほうが楽しいと思いますよ。…でも今では乙一さんも佐藤さんも滝本さんも結婚されて。

——(R)北山さんは？

北山 僕はまだ先ですねー。

—— 西尾さんもまだですよ。

北山 まだですね。

—— どこかで合コンの話を読みました(笑) ——(R)『小生物語』(注29)ですね。

—— 私もそれで読みました。でも作家さ

んつていい意味で浮き世離れしてるつていうか。偏見ですが。

北山 いやあ、変な人ばつ…いやでも、その中で一番すごかったのは滝本さんかな。ノートパソコン持って一人ベランダに出て、隅っこで書いてましたからね(笑) 集中するためだと思いますけど。

—— じゃあ次の企画でやります。

——(R)えっ、やるの？

—— 企画します、文芸合宿！

北山 文芸合宿(笑)

少年検閲官

—— 最新作の『少年検閲官』は、先ほどのお話だとシリーズものに…。

北山 長編として書いてしまったので、やっぱりシリーズになりますね。とりあえず、次とその次まではどんなものを書くかトリックを含めて考えてはいます。それらに関しては、冒頭部分まではもうできてるけど、まだ終わってないんです。これからですね。—— 『少年検閲官』では書物のない世界が舞台ですが、あの舞台設定は？

北山 やっぱトリックに関してですね。

—— やはりそれもトリック。

北山 これも本格ミステリーワールドのコラムでちよつと書いたんです。犯人が壁に何か落書きを残していて、それが一体何なのかというロジックから始まった話なんです。それを広げて広げて、本のない世界で少年が冒険してつていうところに持ってたんです。もともとは謎の落書きを残して、犯人は何をたくらんでいるのかみたいなの、そのロジックでした。最初に考えたのは。

—— 本のない世界は想像できないです。

北山 そうですよ。編集者さんにも言われたんですけど、やっぱり本のない世界ってあんまり想像がつかない、なかなか現実として考えられないんですよ。もちろん、あの世界は本がない世界なんですけど、それをオブラートに包むためにミステリがない世界っていうことにしてるんですけどね。真相から逸らすつもりでミステリがなくて少年が冒険してるつていう大げさな世界ができてるんです。

—— 最初は短編で書いていたものが長くなったとか？

北山 そうです。もともと一つの短編とし

てできたんですよ。謎の十字架の落書きがある、いったいなんだろう、という話で一八〇枚くらいの短編として一応書いたんですよ。でも連作短編にしようとした時、一つ一八〇枚で、いくつか載せるとどうしても容量的に全体が大きくなってしまふ。じやあ長編にしようという話に。

—— そうだったんですね。『少年検閲官』も他の作品と共通しているように非現実的な世界ですよ。

北山 SF的な世界になってますね。それこそ「ミステリーズ！」に現在連載しているのはわりと現実の話なんですよ。その中で気をつけてるのは登場人物の名前を普通にありそうなものにしてるんです。それだけでだいぶ現実感が出て地に足が着いてきますね。そういう意味で固有名詞をわりとありふれた感じにすると全然変わってきますね。例えば「恋煩い」は全員名前をカタカナにしたんですよ。それだけでちょっと現実から一步引いた感じになるんですよ。そういう意味で固有名詞は大事なかなと。

—— (R)先ほど二冊先までは考えてるって仰ってましたけど、完結の部分まで考えて

いるんですか？

北山 今のところは三部作で考えてるんです。ただその後はどうなるかわかんないんですけど、短編集的なもので一回できたらいいなと思ってるんですよ。ただ長大なシリーズとして書いていこうっていうのは今のところないです。状況がすごい特殊なので、そうそう続けてはやれないだろうなと。

—— 特殊設定でも少年検閲官はあえてシリーズに……。

北山 思いついたトリックが結構一杯あったんですよ。だから連作にしようと思っただんですけど、分量が多くなるので、長編三つにしようっていう感じですよ。なのでこの世界観の中で使えるトリックはあと二冊分あるってことですね。

北山さんの

—— 全体的な質問ですが、理想の探偵像などはお持ちですか？

北山 理想を言えばヒーローですよ。僕が好きなのは颯爽と現れて謎を解決して、格好よく去っていくみたいにヒーローとして

活躍する探偵なんです。けど、いざ自分が書く段階ではあくまで機械に徹してくれただろうが、僕自身は書きやすいですね。

—— 機械ですか？

北山 それこそヒーローとかにしてしまうと、探偵を犯人に仕立てたりとかできないかなんですよ。もちろんそこで驚かすというやり方もあると思うんですけど、自分の中でヒーローにしてしまうとやっぱり躊躇いが出ますよね、殺すのに(笑)

—— なるほど(笑) 北山さんの作品では最初からわかっている探偵が多いとか、推理する過程をあまり重視していないように思うのですが。

北山 メルカトルじゃないですけど、わかってしまった時点で答えを言ってしまうえば、話が終わってしまうんですよ。本当に優秀な探偵っていうのは出てきた直後にわかっているんですけど、そこはやっぱ物語の要請上、壊れてもらうというか。やっぱり来た直後にすぐ解いてしまうような探偵は長編向きではないですよ。探偵役については、本当に、あまり優秀ではないほうがいいのかもしれないですね。

—— 確かに……。先ほど御手洗潔が好

きな理由というの？

北山 彼はヒーローですよ。じゃなかったら白馬に乗って現れたりとかしないですからね(笑) ああいうことができてしまうのは、やっぱり御手洗潔かなど。だから僕は基本的に名探偵っていうのはヒーローだと思うんですよ。

—— ご自分の作品の中で好きな探偵役・キャラクタはいますか？

北山 一番かわいそうなのは、名前さえ適当に付けられたギロチン城の被害者たちですよ。そういう意味ではちよつと愛着があるというか。もし普通に生きている人間だったら、何のために生まれてきたのか、ちよつとかわいそうになつてしまいますよね。

—— そうですね。

北山 今にして思えば彼女達はちよつとかわいそう過ぎるかなと(笑)

—— では好きな探偵役は？

北山 探偵は、そうですね。うーん、そうだなあ。まあ個人的にはギロチン城の探偵役が好きですね。

—— 頼科……ナコですか？

北山 ナコのほうなんですけど、あの人は全然役に立っていないんですよ。犯人にやら

れただけなんです。そういう意味でわりと好きかな。ダメな子ほどかわいいというか。

—— デビューは確か二〇〇二年……。

北山 もう四、五年は経ってますね。

—— 思い入れがある作品は？

北山 思い入れが強い……：時間的な意味でギロチン城は結構つらかったですね。というの、考えてた期間は長いんですけど書いてた期間はすごい短くて。なんだかんだでクリスマスまでにあげてくれっていう話だったんですけど、二十四日の〇時まるかまわらないかくらいにメールで送って、編集部でも待ってもらって、大変だったなあっていう記憶が残ってますね。実際中身を書いてた時間は一ヶ月もないんですよ。それこそ三週間とか二週間で書いたんです。

—— 短いですね。この五年でご自身の考え方や作品に変化はありますか？

北山 やつぱり最初の三作……クロック城・瑠璃城・アルファベット荘を書いた後とアリス・ミラー城を書いた後では自分の中の意識が違ふと思えますね。その三作はデビューする前に書いていたものなんです。でもアリス・ミラー以降は、読者の意見なり評価なりを見た上での作品なんです。そう

いう意味でやつぱり全然違いますね。というの、ここまではいい、ここからはだめ、というような尺度、物差しができたんですね。そういう意味でアリス・ミラー城からは読者の目を気にするようになりましたね。読者はみんな驚かしてほしいんだろっていうような(笑) そういう意味合いもあってアリス・ミラー城はああいう作品になりました。

—— ホントに驚かされました。

北山 物差しを手に入れて、どういうことをすればいいのかっていうのをすごく考えて書くようになりました。それまでは好き勝手、自分のやりたいことをやりたいようにやっていたというのはありますね。なので、例えば今瑠璃城を書けるかっていったら、今の僕には書けないですね。さすがに怖くてあれは人前には出せません。

—— 怖い、ですか？

北山 怖いですね。あの作品を読者の前に出した時、これを理解できる人はいないだろうって、想像できるんですよ。ぶっちゃけて言ってしまうえばこんな作品を誰が喜ぶのか、誰がわかってくれるんだろうか、とは思います。それこそ、若気の至りですよ。クロック城もそれが強くて、振り返るのも

嫌だったんです。でも今回文庫化するにあたっていやいや過去の自分と向き合いました、それなりに直すところは直して今の自分では妥協できる範囲ぐらいには直して出したんですけど。

——(R)読者の目っていう点で、「踊るジョーカー」の密室トリックはわかりやすいって言えばわかりやすいと思うんです。ただその先まではわからない。クロック城にしても密室トリックはなんとなくわかるけど、首切りの理由まではわからない、みたいに感じたんですね。ここまでは読者にわからせてあげるけど、ここでは驚かせてやろうっていうのはやっぱりそれぞれありますか？

北山 ありますね。ポイントの一つなんです。で、それを活かすためには他のを捨ててもいいっていうのはあります。例えばクロック城では、ミステリとしてのサプライズは、生首の部分なんです。そこさえ驚いてもらえれば、それまでの間に犯人がわかられようと、殺人の方法がわかられようと、かまわないっていう捨て身的なところはありますね。肉を切らせて骨を断つに近いイメージで作ってる部分はあります。

——(R)ジョーカーの密室はこれで決まり

だろって思っただけ、安心しきってたんで。

北山 普通はわからないですよ。ジョーカーで言えば、あれは冒頭を読んだ時点でマリアの人は、もうこれは××××だなんてすぐわかると思うんですよね。ただ、その先までは考えもしないだろうし、そこにそういうトリック的なものがあるとはやっぱり思わないと思います。何かを立たせるため、どこかを捨てる覚悟はしてますね。——読者がどこまで読めるか、わかるものですか？

北山 わかんなくなることはありませんよ。自信満々で出しても、すぐわかりましたってなるときもありますから。「恋煩い」は、これを書く前に全然別の話で書いてるんですよ。ただそれを出したら編集者に最初からそのトリックを看破された状態で読まれて、これはダメですねってなって新しく書き直したんです。なので、やっぱり他人の目を判断の中に入れてはわかつちやうトリックですね。自分の中でこれはわかつちやうトリックなのか、大丈夫なトリックなのかっていうのは、時々わからなくなりますね。

注13 蒼鴉城(そうあじょう)

麻耶雄嵩のデビュー作『翼ある闇』で舞台となったお城。ちなみに漢字で書くと同じ「蒼鴉城」だが、京都大学推理小説研究会の機関紙は「そうあのしろ」である。

注14 本の解説

講談社ノベルスで復刊された『消失!』(中西智明)の解説を北山さんが書いています。本編、解説共に秀逸なので読むべし!

注15 レーベル

『アルファベット荘事件』は白泉社MY文庫から出版されている。残念ながらレーベル自体がなくなつたため、手に入りにくい。K談社様、文庫化期待しています!

注16 叙述トリック

ミステリマガジンに掲載されていた笠井氏、米澤氏、辻村氏との座談会より。

注17 某作

ここでタイトルを挙げることで自体、ネタバレになるので伏せます。気になる方は前述の座談会参照のこと。

注18 容疑者Xの献身

東野圭吾作、探偵ガリレオシリーズの第三弾で初の長編。「本格」論争を巻き起こしたいろいろな意味で話題作。なお、この短編シリーズは二〇〇七年湯川秀樹を福山雅治が演じるという驚愕の配役でドラマ化され、一部の話題をさらった。本作も二〇〇八年秋に映画化されることが発表されている。

注19 米澤穂信

日常の謎を扱った青春ミステリを得意としている作家。論理的に考えていく展開が多く、叙述トリックはほとんど見られない。古典部シリーズ、小市民シリーズが人気。

注20 S & M、Vシリーズ

森博嗣の代表的なシリーズ作品。前述した犀川先生が活躍するのは主に前者のシリーズで、ミス研内でも既読率が高い。氏については筆者の個人的な思い入れが強すぎるので、この辺で。

注21 森博嗣の執筆ペース

氏は筆が非常に早いことでも知られている。二〇〇七年もノベルス、文庫落ちなどを含め二十四冊の書籍が発刊されていた。二十万字程度の作品なら十日で書き上げてしまう。（「編集会議」より）

注22 密室トリックとか首切り

散々ネタバレしといてなんですが、これは読んでお楽しみください。

注23 恋煩い

「メフィスト」二〇〇七年八月号に掲載された短編。女の子ならではの怖さがあり、筆者一押し作品。

注24 糸の森の姫君

二〇〇五年「ファウスト vol.6 side-B」に掲載された短編。かく聞き手の二人は先生の短編の大ファンである。

注25 踊るジョーカー

『ミステリーズ！』二〇〇七年八月号に掲載された短編。R先輩の一押し作品。

注26 トリック

実際にやってみたとはいびっくりである。

注27 リレー小説

「ファウスト」の企画として行われたリレー小説。北山さんの他に乙一、佐藤友哉、滝本竜彦、西尾維新が参加して行われた、前代未聞の文芸合宿（ひらめきのもと）は文芸をライブする、らしい）で執筆された。「ファウスト vol.4」に掲載。

注28 CDのジャケット的なもの

同じく「ファウスト vol.4」に掲載された、作家さん勢ぞろいのグラビア写真のこと。このセンス、ステキすぎるっ……。

注29 小生物語

乙一の記事のようなフィクションのような短編集。ページに占める文字数は限りなく少ないが、かなり笑える。

青年小説家、登場

——(R) 続いて、作品から離れた質問をしたいと思います。佐藤友哉さんは北海道出身で今東京にいらっしやいますが、北山先生が岩手に留まっているのは何か理由が？

北山 出版関係の付き合いとかそういうのでは東京に出たほうが楽といえは楽ですよ。でも今は原稿もメールで送ってるので、特に不自由さは感じてないんですけど、やっぱりいつかは東京で書くことになるかなあと思っていますね。いつまでも地元にいるもしようがないかなとは思ってます。

—— あえて選ばれて地元に残られてるんだと。

北山 そうですね。ただ特別地元が好きだからという理由で残っているんじゃないです。もっと消極的な理由で残っている感じですね。東京に出る特別な理由もないので、残っているというか。

——(R) ほとんどの作家が印象的なペンネームを使われる中で、あえて本名で書かれた理由ってというのは？

北山 最初は特に考えなかったからですね(笑) でも今にして思えばペンネームがよかったかなと思います。例えば、ホテルのチエックインの時とか公的などところに名前書かなきゃいけない時とかは、別の名前があつたほうが、よかつたのかなあと思いますが。パレブレじゃないですか。荷物の届け物に本名を書いた後、そこから調べようと思えばわかつてしまうので。

—— ペンネームをつけるならこういうの、みたいなものはありますか？

北山 でも結局無難なところに落ちついたりと思いますよ。なんかこう風格高い新本格的な名前にはしなかつたと思いますね。

——(R) 例えば黒田研二さんはペンネームだと知り合いに自分の本だつて紹介できなくなるから、本名でつていう(笑)

—— そうなんですか(笑)

北山 (笑) あの方は写真も載せてますしね。でも僕は逆にいやですよ。だつて本屋さんに自分の名前の本があつて、なんか照れくさいじゃないですか。自分の名前があるとかやっぱりいやですね。

—— いや、ですか？

北山 ペンネームだつたら違つたのかもしれないですけど、感覚としてはあんまりいい感覚ではないですね。

——(R) 例えば辻村深月さんなんかは明らかに綾辻さんから一字いたたいたというお話が。

北山 辻の字はやっぱり綾辻さんからもつたらしいですね。

——(R) 霧越邸のヒロインの名前が深月で、名前はそこからみたいですしね。

北山 そうなんですか？ それは知らなかつたですね。

—— 好きな作家さんから取るのは恐れ多いですね。

——(R) うん、恐れ多い。

北山 でも辻村さんはデビューの前からお知り合いだつたようで。なんかに書いてましたっけ？

——(R) 手紙のやりとりがあつたとか対談で言つてましたね。

—— 辻村さんで思い出したのですが、執筆する時、どの部分を書くのが楽しいですか？ 以前、綾辻さんの講演会(注30)で、綾辻さんはトリックを明かす時すごい自分の中でも楽しいみたいなのを。

——(R) それは確か逆じゃなかつたかな。

辻村さんは謎を明かす時すごく楽しくて
テンションが上がけど、綾辻さんは比較的
冷静。

——あれ、そうでしたっけ？

北山 トリックを明かす時ですか？

——はい。

北山 そうですね……僕は作ってる時が一番
楽しいですね。書く前の段階です。

——(R)楽しいですね。

北山 こんなのだらうっていうのを考える
のが楽しいですね。その後は本当にだん
だんつらくなってきましたね。自分の考えてい
ることがもっと早く文字になればいいなと
思いますよ。頭の中にあるものがそのまま
文字になれば。

——(R)書いている時、別な小説のアイ
デアを思いついてしまうと、今書いているネタ
よりも面白く思えたりします。

北山 ああ(笑)でも自分が理想としてい
るのと、実際書く側として立場っていうのは
ちよつと違ってきましたよね。

——そうなんですか？

北山 やっぱりヒーロー的な探偵を出した
くても、自分では上手く出せないとかあり
ますから。

——ギャップみたいなものが出てくるん
ですか？

北山 そうなんですよね、やっぱり一人の
読者でもありますから。読者の意見と作
る側の立場っていうのはちよつと違ってきた
ですね。読む側としてはそれこそ叙述でもな
んでもいいんですけど、作る側としては、も
う叙述トリックは特別なことがない限りや
るべきではないと思つてますし。

——では読んでいる時と、書いている時ど
ちらが楽しいですか？

北山 誰もがそうだと思うんですけど、や
っぱり話を考えているときが一番楽しいで
すね。妄想しているときが一番(笑)みん
なそうだと思いますよ。

心 想

——小説の技法についてお聞きしたいん
ですが、例えば強調の方法として傍点
は好きですか？

北山 結構好きで使いますね。あんまり多
用するとそれこそちよつと重要度が落ちて
くるので気をつけるようにしてますけど。

——(R)光文社のアンソロジーの記念でや
った綾辻さんと瀬名秀明さんの対談で、
本格は傍点ですつていう発言があつて、そ
うだなつて思つて。

北山 そうですよ。あるとやっぱり違
いますよね。

——誰が始めたんですかね？

北山 西尾さんは有栖川さんだつて言
うんですけど、その前からたぶんあると思
うんですよ。講談社ノベルスでは、綾辻
さんが先ですよ。

——(R)海外だとクイーンとかにもあ
つた気がします。

——ありますよね。

北山 海外の作品かな。村上春樹にもよ
く出てきますよ。意味のないというか、普
通の会話に傍点があつてあたりとか。ミス
テリとは全然違う意味で使つてるんですよ。
村上春樹は周りの文章と区別をつける
ためにちよつと傍点ふるみたいなの。

——読者への挑戦状とかは？

北山 すごい好きですね。ただ、そこい
つたん本を置いて考えませんですけど(笑)ど
うしても先を読みたくなってしまうんです。
——日本だと有栖川さんが有名で。

北山 『双頭の悪魔』なんかすごい好きですよ、やつぱり。三回も読者への挑戦状が入りますよね？ あれ見てホント感動しました。それ以前には斜め屋敷で二回入ってるのはあつたんですが。

—— 折り返しの部分の一言はいつも北山先生が考えていらつしやるんですか？

北山 一言コメントくださいって言われるんですよ。あんまり書くこともないので、いつも適当に書いてますね。

—— アリスミラーのときは鏡文字になって、特徴が出てると思います。

北山 あんまりわけわかんないことを書いても、あれかなと思つて(笑)

—— (笑) 北山作品といえは図版(注31)が特徴的だと思うのですが、北山さんが読んだ中で図が印象に残っている作品はありますか？

北山 図版で驚いたのはまぎもなく斜め屋敷ですね。

—— 図が載っているミステリは好きです。

北山 ほんとによく聞きますよね。見取り図があるだけで楽しいとか。わくわくするとか。

—— うつかりパラパラすると悲劇が(笑)

北山 でもそれはやつぱり覚悟の上ですよ。パラパラされても面白いつていうのが前提かなと思いますね。絵そのものが面白くなければ、トリックとしては不足かなと思います。例えば図版でトリックを示すなら、図版そのものがわくわくしないものはトリックとしてもつまらないかなと思いますね。なので図版そのものが一つのエンターテイメントだと思えます。

—— 図はご自分でお作りになるんですか？

北山 はい、そうです。特にアリス・ミラー城なんか見るからに素人がペイントで作つたような感じですよ。これはここだけの話ですけど、マイクロソフトの最初から入ってるペイントソフトを使って描いてます。しかも途中でデザイナーさんが入らなかつたので、カクカク感が抜けてないんですよ。他の図版はカクカク感が抜けてたりするんですけど、アリス・ミラー城だけは途中でデザイナーさんが入つてないっぽいですね。

—— 図を描きながらトリックを考えるんですか？

北山 基本はそうです。だから物理トリック、物理トリックって言ってるけど、わかり

やすくいうと図版トリックじゃないかなつて思うんですよ。物理トリックって聞いた時に、もつとこう高尚な物理学的な、科学トリックをイメージする人が多いっぽいですよ。物理トリックっていう言葉自体初めて聞いたつていう人も、ファウストの読者にいたりして。物理トリックっていう言い方がよくないのかなつて思つた時に、じゃあなんて言い換えたらいいのかと考えると、例えば機械トリックっていう言い方もあるんですよ。ただそれだと機械を使つたトリックということになつてしまふんです。そこで、一番いいのは図版トリックっていう言い方じゃないかなつて思うんですよ。あるいは図版を使った解決編が行われるトリックみたいな。ソフトを使つて僕が作つてるんで図版を作るのはけっこうめんどうさいんです。紙に描くのは簡単ですけど、パソコンで描こうつてなると大変なんですよ。でも、ないよりあつたほうがいいですよ。

—— 北山先生ご自身が図版を作つていらつしやると思ひませんでした。

北山 (笑) 作つてますよ。デザイナーさんが入つたつていうのは角とかがきれいいです。アリス・ミラーは入つてない典型ですよ。

——(R)きつと文庫版では立派に(笑)

北山 かもしれないですね。ちよつとドット感が抜けてない。でもこの図にある手(P275参照)だけは入れてもらいました。きれいなんですよ、その手だけ。

——クロック城を書かれた段階ですでに図版を？

北山 描きましたよ。ソフトで描いてプリンアウトして応募しましたね。

——城シリーズに関しては、絶対パラパラしないつて決めてるんです。

北山 でも少なからずいると思いますよ、めくつてやろうつていう(笑)で、ああこういうのだなつて思う人はたぶんいると思いますね。

おまけ☆奇妙な偶然く誕生日

——(R)全然関係なくて……全く、すごいどうでもいい話なんですけど、北山さんつて清涼院流水さんと誕生日同じなんですよ。(注32)

——(笑)

北山 (笑) そうなんですよね。だからすごい偶然つていえば偶然なんです。これまたすごい極秘情報でもないんですけど、流水さんのデビュー作の『ゴズミック』の被害者の何番目かに、なんとか猛邦つていう、まんま漢字が同じの被害者がいるんですよ。

——(R)それはチェックしてなかったです。

北山 すごい偶然だなと思つて。

——確かに。流水さんつておいくつなんですか？

北山 五歳違いだから三十三歳ですね。

——西尾さんは……？

北山 二つくらい下ですかね。

——(R)俺の二つ上くらいかな。

——みなさんお若いですね。……私、古野まほろさんと誕生日同じです。これこそ本当に全く関係ないですけど(笑)。

短いお別れのための

——では最後に今後のご予定を……。

北山 まず、なんとか城殺人事件を講談社ノベルスで書くことになつてるんですけど……言つていいのかな(笑)

——(R)言うだけ教えていただけると。ダメなら載せなければいいだけです(笑)

北山 (笑) 今のところ考えているのは△★♪と書いて△♪城(注33)なんです。、そのタイトルを言うときインディ・ジョーンズをたいていの人が思い浮かべるみたい(笑) ゴロゴロ転がつてきて殺される、みたいな。

——(R)実際はゴロゴロ？

北山 ゴロゴロ転がるかもしれないですけど、そんなようなものだと思つてもらえれば。イメージとしてはこうお城の中に大っきな△★♪がゴロゴロ。

——やっぱりゴロゴロ？

北山 ゴロゴロ転がつているわけじゃなくて、置いてあるつていうような。

——(R)動かさないけど下でつぶれてる？

北山 まあそんな感じ(笑)

——城シリーズは何作くらい？

北山 十個できればいいほうじゃないですかね。といつても全然先の展望はなくて。結局のところ、話につながりがないですし、なんでも城にしまおうと思えばできるんですよ(笑)でも、そんなに毎回毎回お城つていうふうには考えてないですね。

——講談社ノベルスで城以外の作品も？

北山 違うのも出したいとは思ってます。

でも書こうとすると、やっぱりお城でもいいじゃんっていうような気もするんですが。あとは『少年検閲官』の続編と「ミステリーズ！」で書いているのがそのうちまとまるかなって感じですか。あれも同じ主人公で書く予定は無きにしも非ずなんですけど。今は特に考えてないんですよ。でもあれははずれま

とめて一冊にしたいとは思ってますね。

——じゃあ一番近いのは……？

北山 城かなあ。

——来月ミステリーズに載りますね。

北山 載ります。この前終わったところなんです。本当は隔号でもいいみたいなお話だったんですけど、いつの間にか連載になってましたね(笑) 他には「メフィスト」で書いたのかもあるので短編集もそのうちまとまるんじゃないかと。

——(R)出すとしたら講談社ノベルス？

北山 ですよ。

——(R)ファウストの短編を集めてBOXとかも(笑)

北山 今は完全に部署が分かれているので、たぶんファウスト関係の短編を出すとしたらBOXになると思いますね。

——では今後こんなものが書いてみたいというものは何かありますか？

北山 全然ミステリじゃないものも書きたいですね。ミステリじゃなくても許してもらえそうな作品が書きたい。

——ミステリじゃなくても許される？

北山 ファンタジー的な、SF的な。よく言われるんですけど、全然ミステリじゃなくてもいいっていうか、SFとかファンタジーで書いてもらいたいっていうのは聞くので、そういうのも書いてみたいと思いますね

——今後の作品も楽しみにしています。

今日はどうもありがとうございます。

——(R)ありがとうございます。

北山 いえいえ、こちらこそ。ミス研の青春を謳歌してくださいってみなさんにお伝えください(笑)

——(笑) 伝えておきます。

注30 講演会

二〇〇七年秋、『十角館の殺人』刊行20周年と講談社ノベルスの25周年を記念して、講談社で綾辻行人氏と辻村深月氏の対談が行われた。聞き手の一人は嬉々としてそれに参加していた。

注31 図版

北山さんの作品には必ずといっていいほど図版が付属している。見ているだけで楽しいこの図版、インタビューにもあるように、なんと北山さん自作らしい。

注32 清涼院流水氏の誕生日

R先輩は清涼院流水の大大ファンである。アンズ20号の企画である清涼院流水インタビューの出来栄えは目を見張るものだった。他に綾辻行人と中井英夫が好きなR先輩が、なぜ清涼院流水のファンなのか、TMC一同不思議に思っているに違いない。

注33 △♪城

楽しみは取っておきましょう☆

「助言という名の謝辞」

インタビューも今回で五回目となった。(メール除き)すべてに同行したが、大事なのは事前の準備だと感じた。完成形をイメージした上での質問内容と質問する順番。それができていればインタビュー後の作業が楽になると思う。またするのなら、その点を考えておくといいかもしれない、とアドバイス。というわけで、久々に夜行バスに乗り、久々に実家に帰り、北山猛邦さんにインタビューをさせて頂きました。いつの間にか作家にインタビューができるようになったミス研の環境と、そして何よりもインタビューを受けて下さった北山さんの好意に感謝します。ありがとうございます。

R

追伸

他にインタビューを受けてくれそうな作家がいましたらぜひとも教えて下さい(笑)

「謝辞という名の反省」

貴重な時間をさいて、インタビューにお答えいただいた北山猛邦先生、ありがとうございます。個人的なお話をさせて頂いたと、初めてのインタビューへの緊張に勝てず、(前日が飲み会だったこともあり)徹夜状態で決戦に挑みました。多数のネタバレと話の飛びっぷりからもわかるように、緊張して上手く話せた記憶がありません。それでもなんとかインタビューを無事終えることができたのは、優しい語り口で長時間にわたるインタビューにお付き合いくださった北山先生と、同行してくださったR先輩のおかげです。本当にありがとうございます。

N

追伸

「ミステリーズ！」12月号、2月号に掲載していた短編もやっぱりステキでした。単行本化、楽しみにしています。